

資料編

1. 津市の人口

(1) 人口の概要

津市の総人口は、平成18年1月の誕生以降減少していますが、平成30年度末で278,440人で、三重県の市町では四日市市に次いで多くなっています。

生産年齢人口（15～64歳）、年少人口（15歳未満）共に減少しており、生産年齢人口は、平成24年度には61.1%であったものが、平成30年度には58.4%に減少しています。



図1 津市の年齢3区分別人口の推移

人口の推移を地域別に見ると、平成21年度末の人口を100としたとき、平成30年度末では久居地域の約105が最も高く、河芸地域及び一志地域も100を上回っていますが、その他の地域は100を下回っており、美杉地域は75を下回っています。

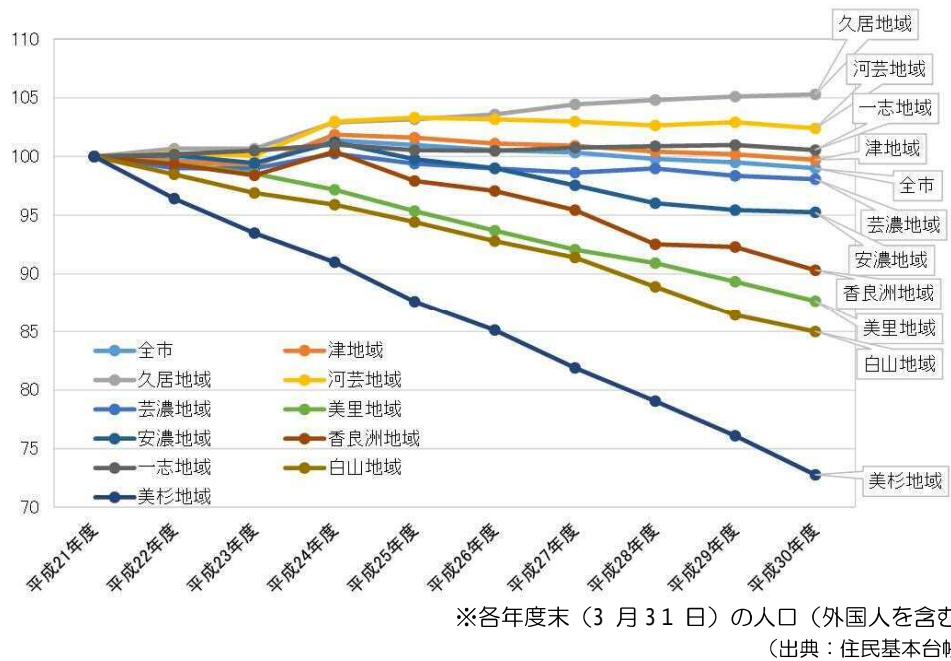
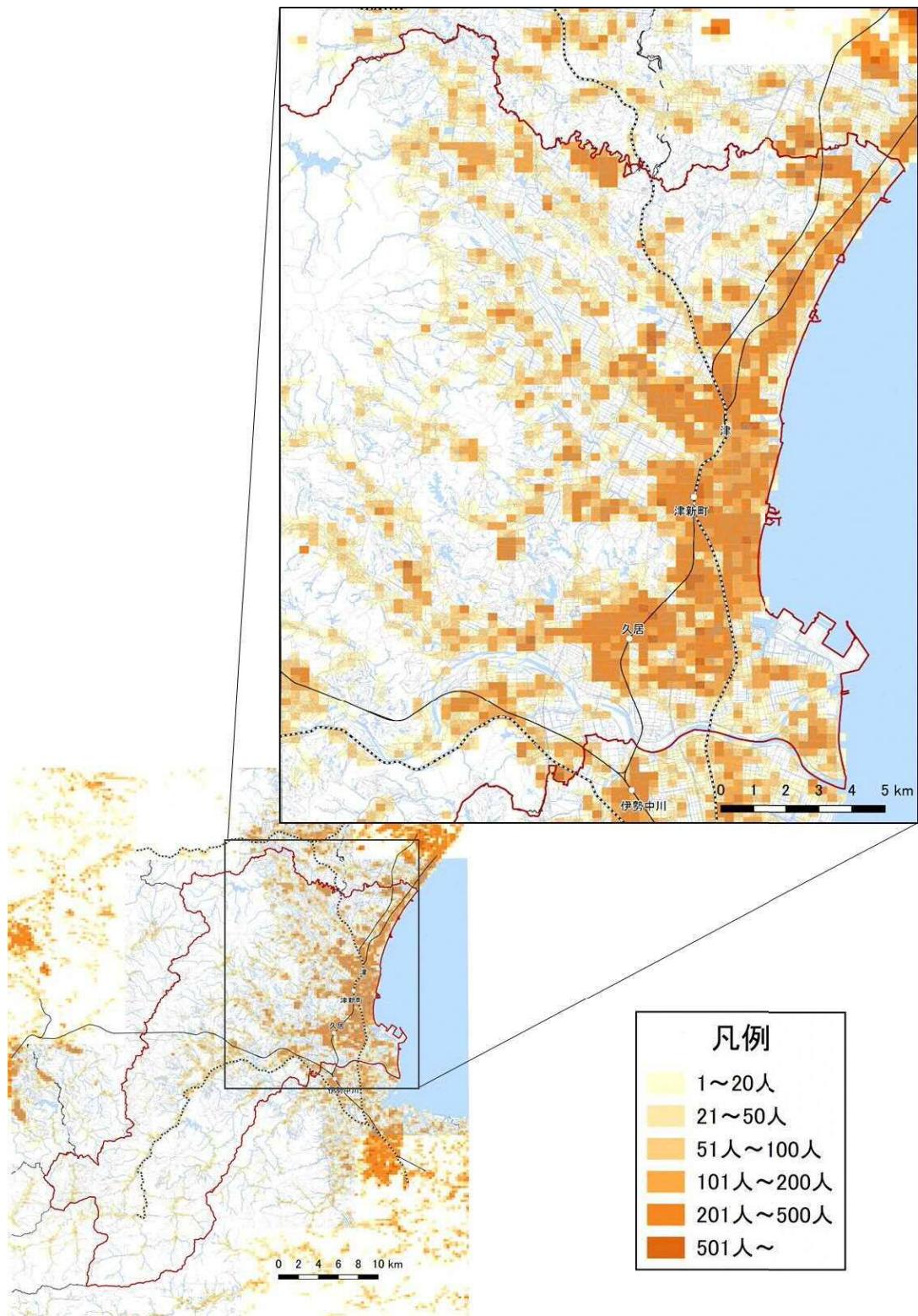


図2 地域別人口推移

(2) 人口分布

津市内の人口は、東部の伊勢湾岸沿いの市街地に集中しており、西部の平野部や山間部では低密度に分散しています。



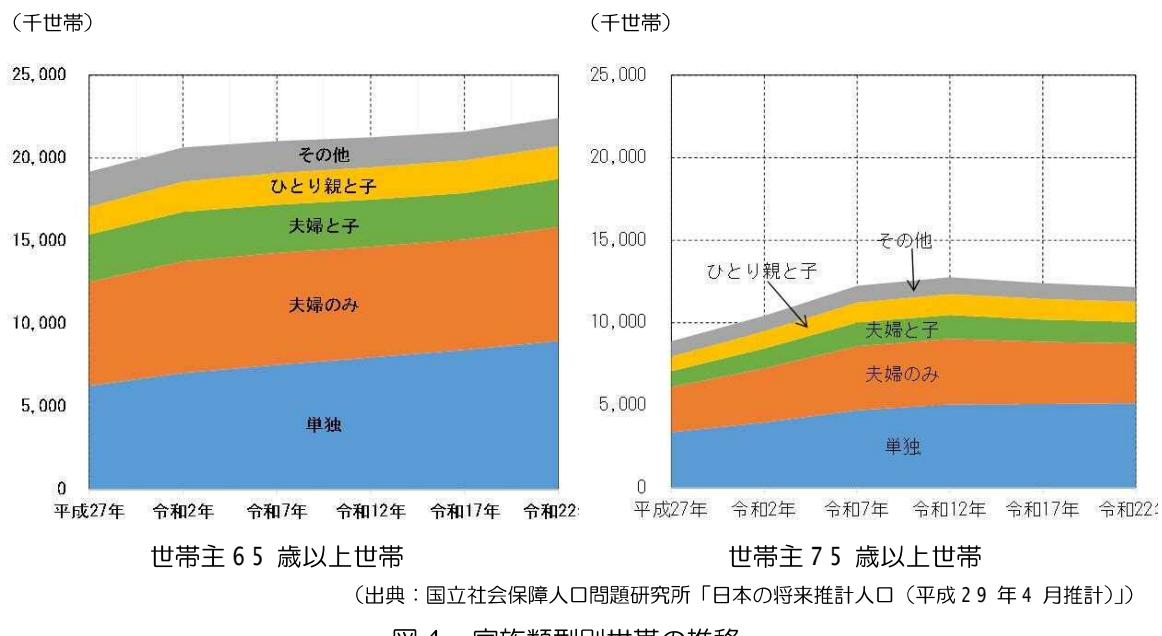
(出典：平成27年 国勢調査 250mメッシュデータ)

図3 津市内の人団分布

(3) 高齢化の状況

日本では、平成27年から令和22年にかけて、世帯主年齢が65歳以上の世帯総数は1917万世帯から2242万世帯へと約117倍に、世帯主年齢が75歳以上の世帯総数は883万世帯から1217万世帯へと約137倍に増加すると推計されています。

また、家族類型別では、最も増加するのは「単独世帯」で、同期間に世帯主年齢が65歳以上では143倍、世帯主年齢が75歳以上では152倍に増加すると推計されています。



高齢化率（65歳以上の人口の割合）を地域別に見てみると、平成30度末で最も低いのは久居地域の25.3%です。河芸地域及び津地域も全市の29.1%を下回っていますが、その他の地域は30%を超えており、中でも美杉地域は59.6%と大幅に高くなっています。

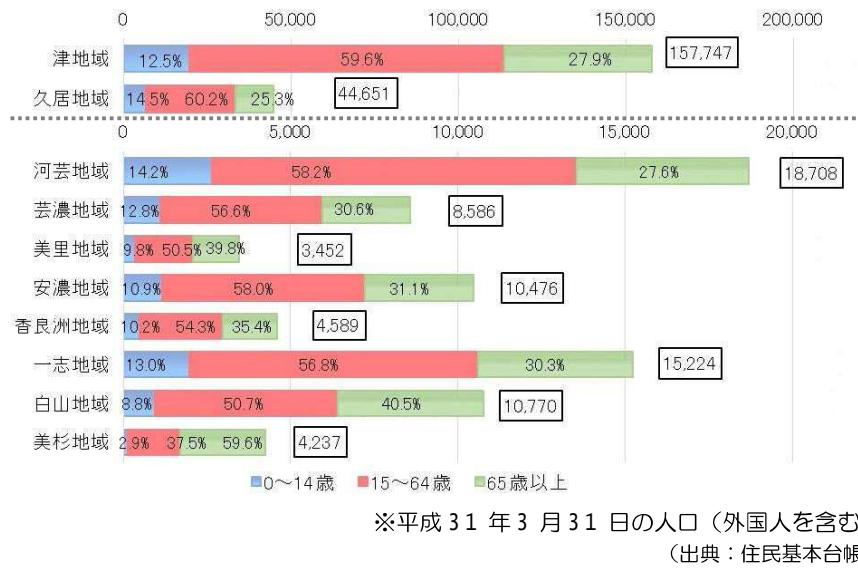


図5 各地域の年齢3区分別人口

(4) 通勤・通学の動向

津市の通勤・通学における流動総数を見ると、津市内での動きが主となっており、通勤・通学共に8割近くを占めています。一方、市域を越えた流入出は、通勤では流出・流入共に鈴鹿市及び松阪市が多く、通学では流出は鈴鹿市及び名古屋市、流入は松阪市及び鈴鹿市が多くなっているなど、隣接自治体とのつながりが強くなっています。

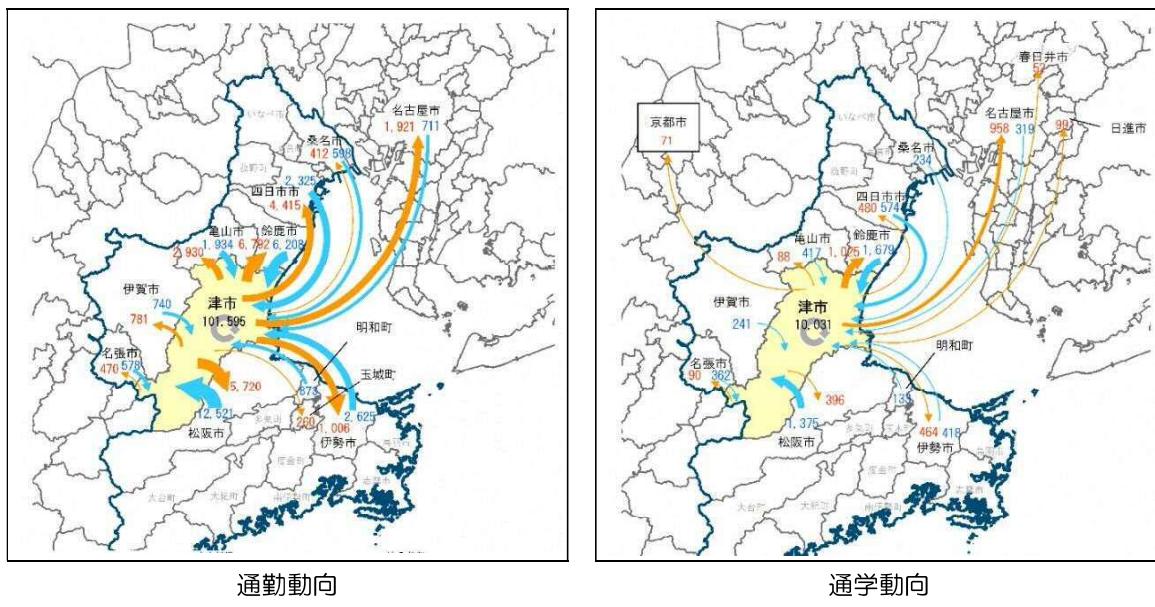
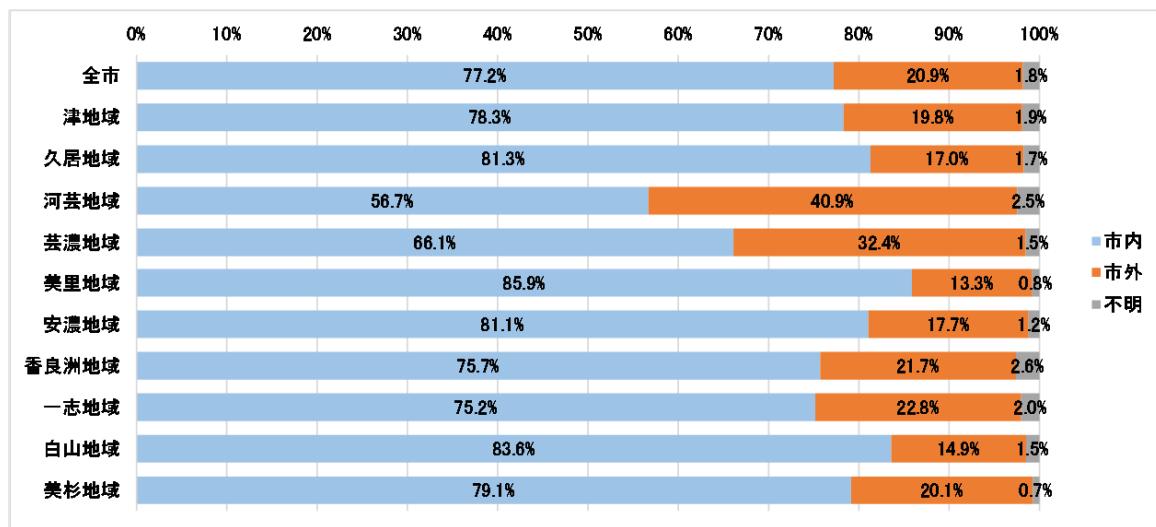


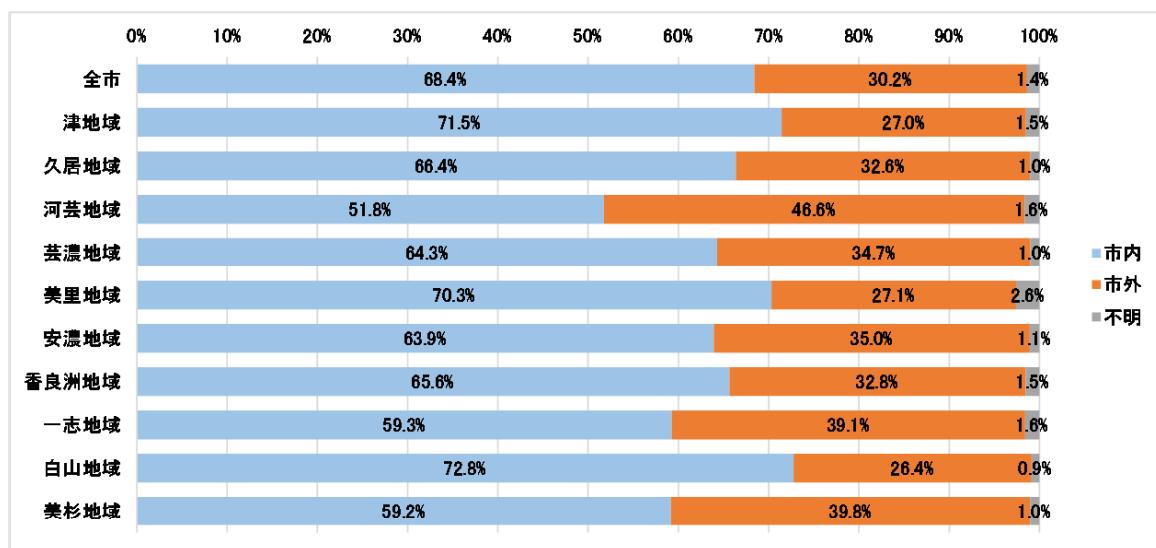
図6 通勤・通学動向

従業地・通学地の津市内外を地域別に見ると、従業地では河芸地域及び芸濃地域で市外が多く、通学地では河芸地域、一志地域及び美杉地域で市外が多くなっています。



(出典：平成 27 年国勢調査)

図7 地域別従業地



(出典：平成 27 年国勢調査)

図8 地域別通学地